

# タバココナジラミの発生と見分け方

昨年秋、全国各地で施設栽培のポインセチアにタバココナジラミ *Bemisia tabaci* (Gennadius) が大量に発生し被害が認められた。

昨年11月からポインセチアにおける本虫の全国的な発生調査が行われ、これまでに22都道府県約14haで発生が確認されている。

今後、本虫の動向が注目されることから、本虫の被害・特徴と見分け方などを紹介する。

**分布** わが国をはじめ中国、台湾、ヨーロッパ、ソビエト連邦、アフリカ、オーストラリア、東南アジア、北アメリカ、南アメリカなどの国々に分布している。

**寄主** 本虫は従来ナスコナジラミまたはワタコナジラミとも呼ばれ、多くの寄主植物が記録されている。ダイズ、ナス、サツマイモ、キャベツ、ワタ、ハイビスカスなどの栽培植

物のほかハルノゲシ、ヨメナ、ヨモギ、アキノキリンソウ、ヤブタバコ、スイカズラ、キランソウ、クサギ、カラスノゴマ、ハスノハカズラ、イノコズチ、ハリビユ、ヒユ、イヌタデ、ミソソバなどの多くの寄主植物が記録されている。

**被害** ダイズ、ナス、キク、サツマイモ、ハイビスカスなどの葉裏に寄生し、多数発生した場合は生育が悪くなり、ス病を併発することがある。

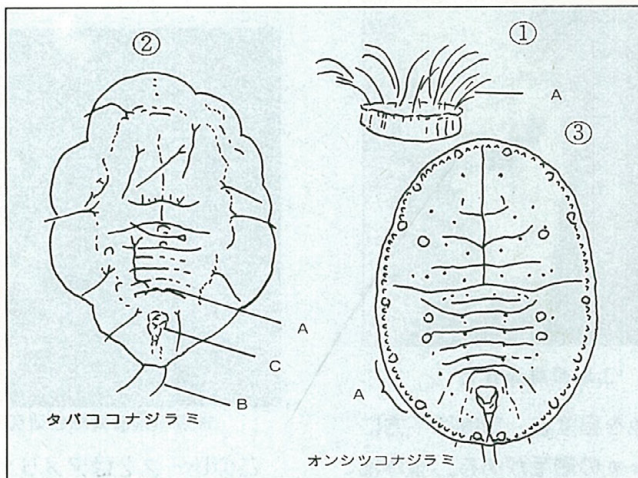
本虫はサツマイモの葉巻病、タバコの巻葉病を媒介することが確認されている。最近トマトの

黄化萎縮病を媒介することも確認されており、ウイルスの媒介者としても重要な害虫である。

**生態** 成虫は年に少なくとも3回は発生するとされているが、くわしい生活史は不明である。発生は秋季に多く見られ、野外の越年性キク科植物の葉裏などで蛹態で越冬するようである。



葉上の 蛹・成虫 (千葉県病害虫防除所 河名利幸氏提供)



タバココナジラミ

オンシツコナジラミ

## 形態による見分け方

成虫は白色で無紋の翅を持ち、体は淡黄色、体長は約0.8mm。オンシツコナジラミと比較してやや小さいが、成虫態で本虫とオンシツコナジラミを識別するのは困難である。蛹殻は長さ0.8～1.0mm、幅0.6～0.8mm、楕円形で、後端はやや細まる。全体に淡黄色で、背面がわずかに隆起する。オンシツコナジラミと比べると次の形態的特徴を有していることから、両者を見分けることができる(識別については大阪市立自然史博物

館 宮武 頼夫氏の協力を得て作成した)。

- ①中央部全体は膨隆するが、体側面は垂直な壁(図①)のようにならない。
- ②背面亜外縁にトゲ状の分泌物(図①-A)がない。
- ③背面刺毛は普通7対ある(図②)。
- ④亜外縁部には瘤列(図③-A)がない。
- ⑤腹部第7節(図②-A)は非常に短い。
- ⑥尾端刺毛(図②-B)は常に太く、管状孔(図②-C)と同長。